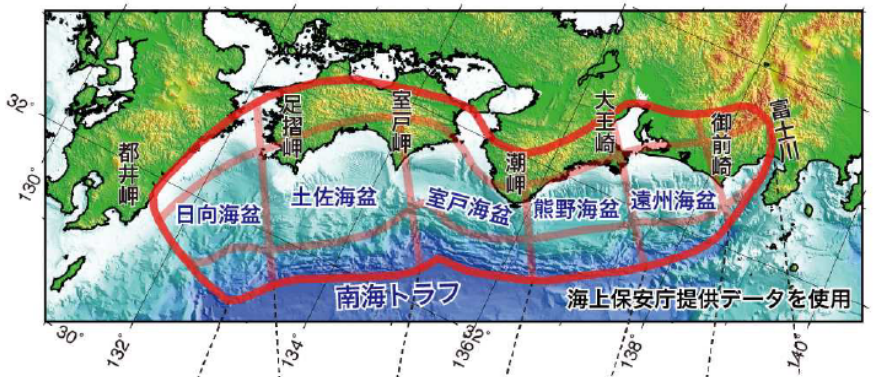
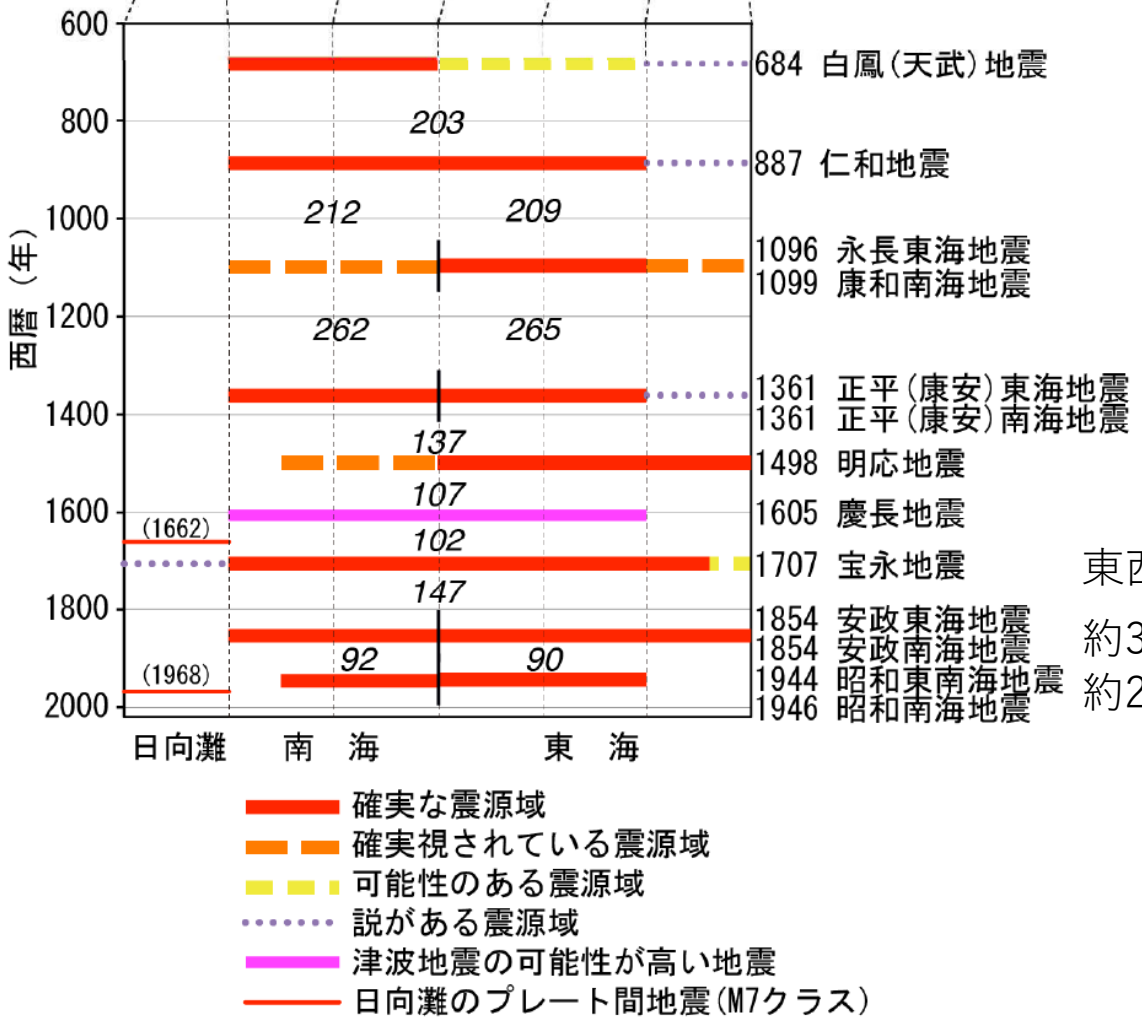
基礎からわかる
地震のメカニズムと予測

（８）南海トラフ地震臨時情報

加藤尚之
東京大学地震研究所





・南海トラフ沿いではプレート境界型の巨大地震が100～200年程度の時間間隔で繰り返し発生してきた

・前回の昭和東南海・南海地震から約80年経過している

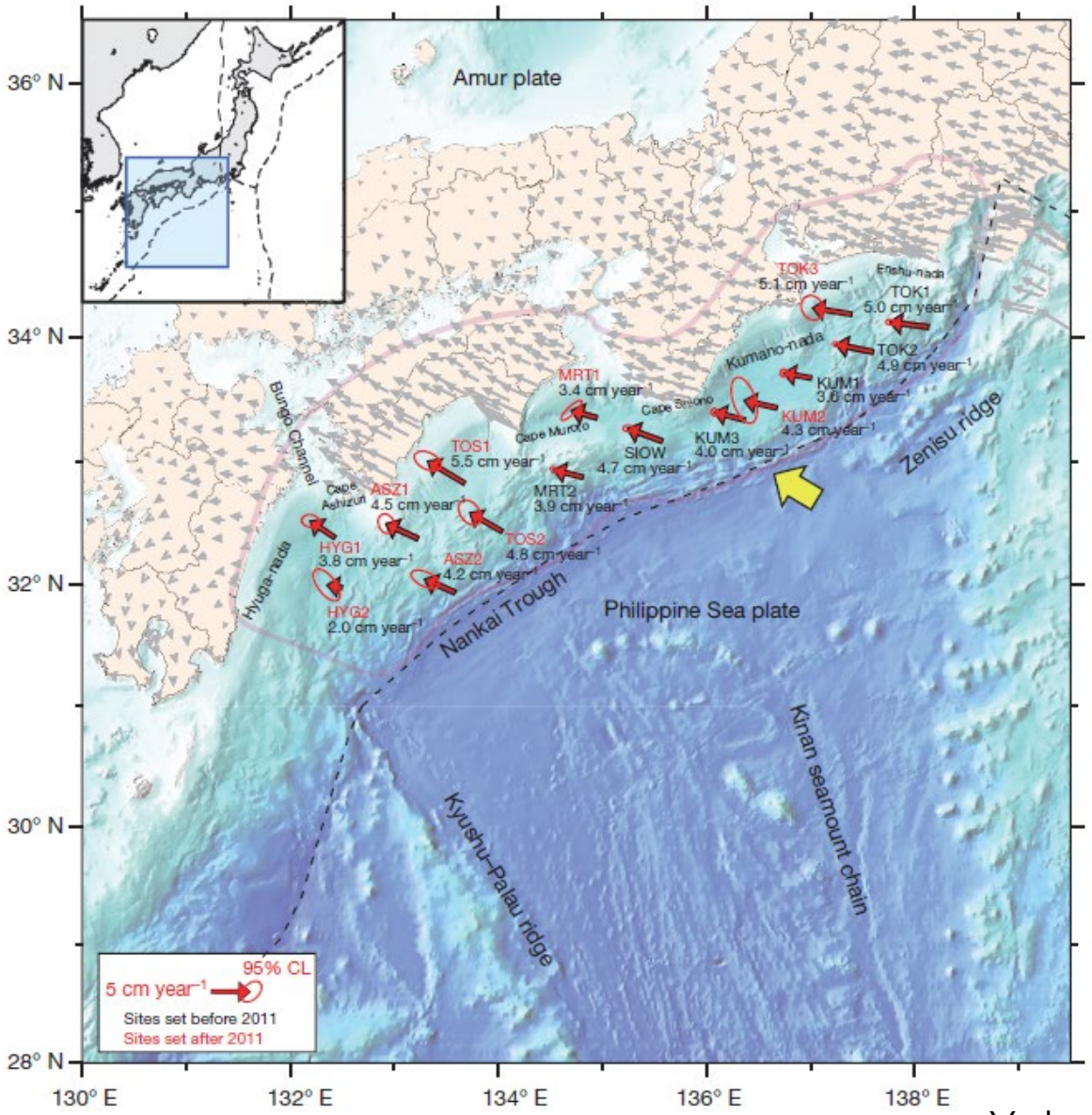
・東側（東海沖）と西側（四国沖）のプレート境界が同時に破壊される場合もあるし，時間差を伴い破壊される場合もある

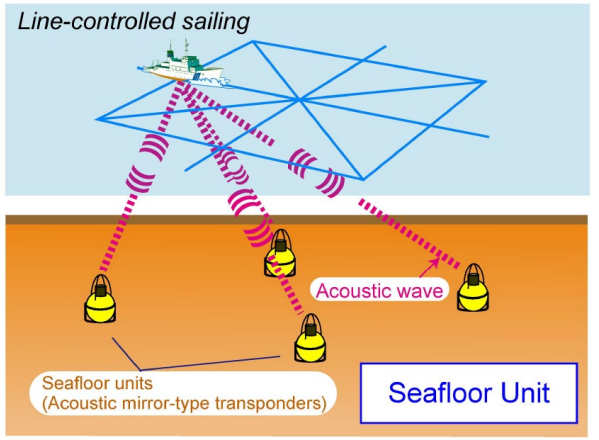
東西同時

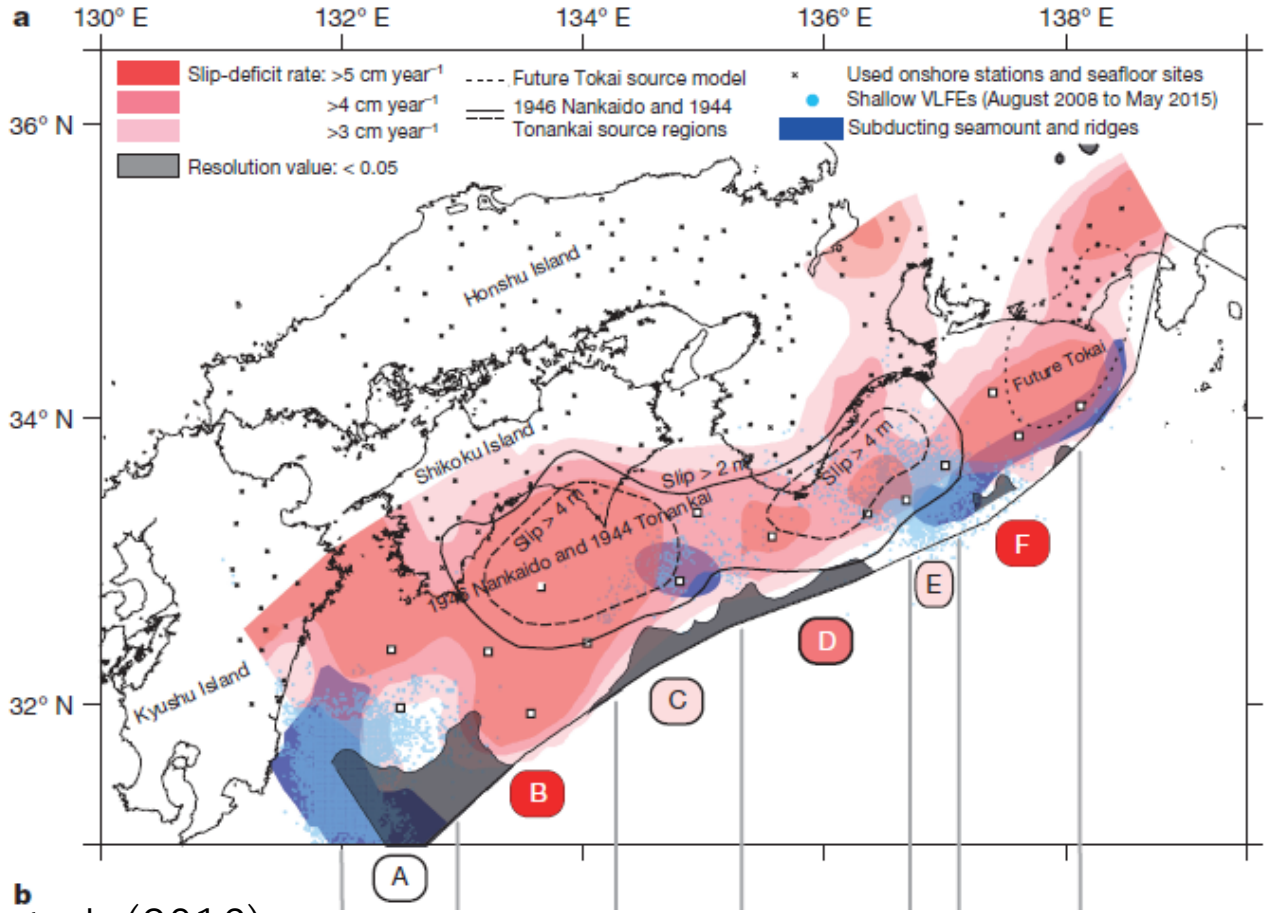
約32時間の時間差（東→西）

約2年の時間差（東→西）

海底地殻変動から推定されたプレート境界の固着状況



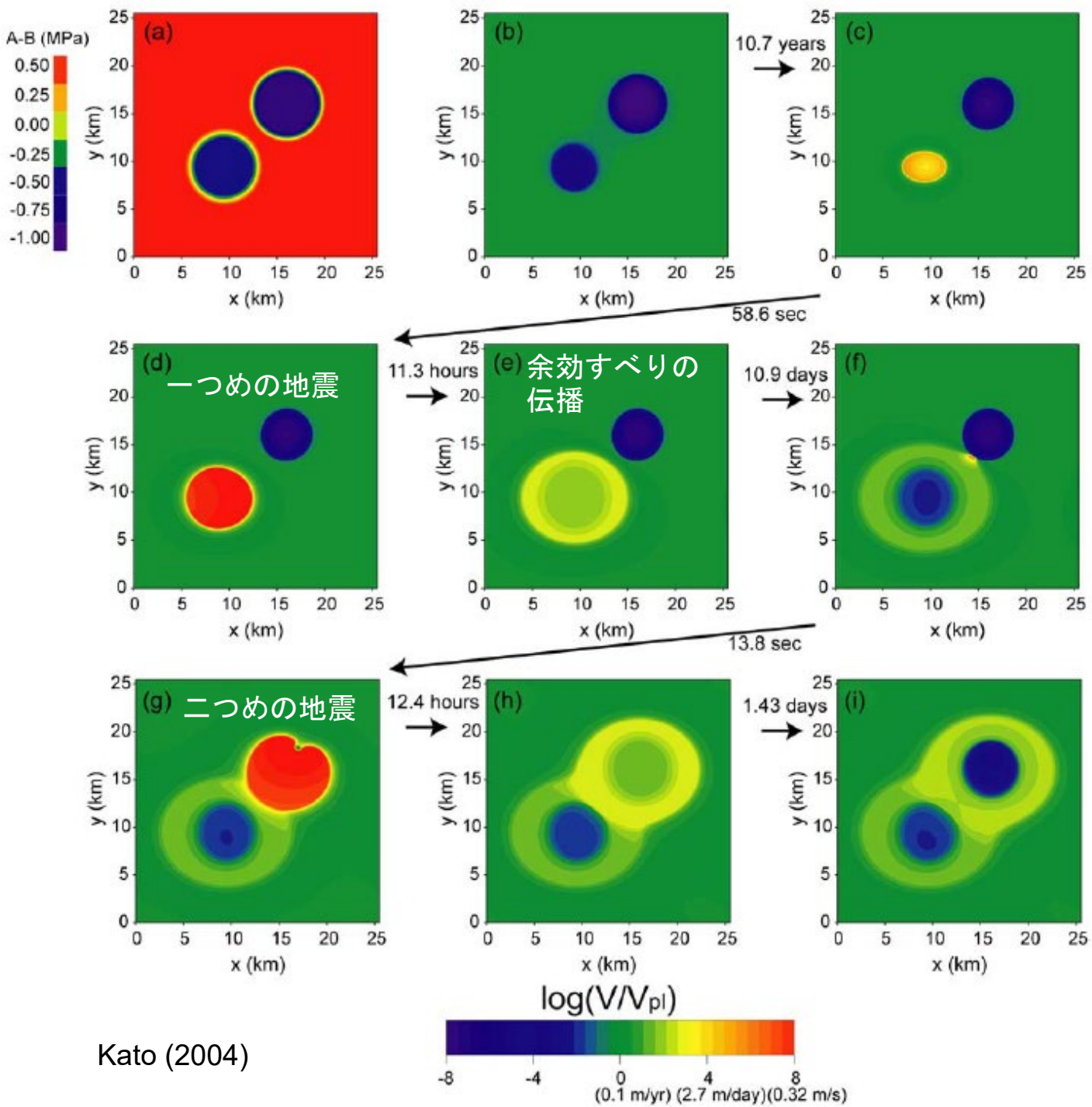




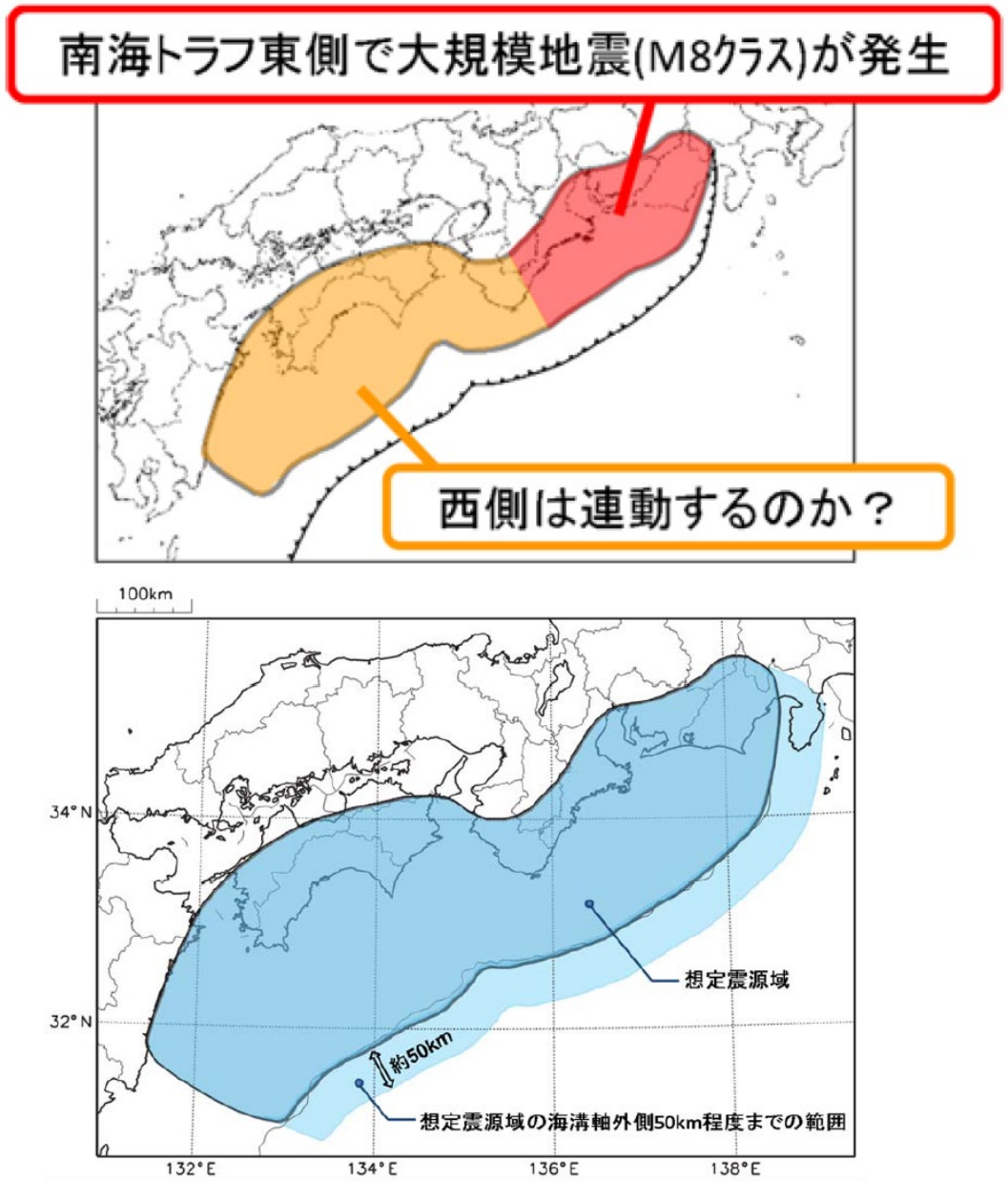
Yokota et al. (2016)

２つの地震発生域（アスペリティ）の破壊過程の数値シミュレーション

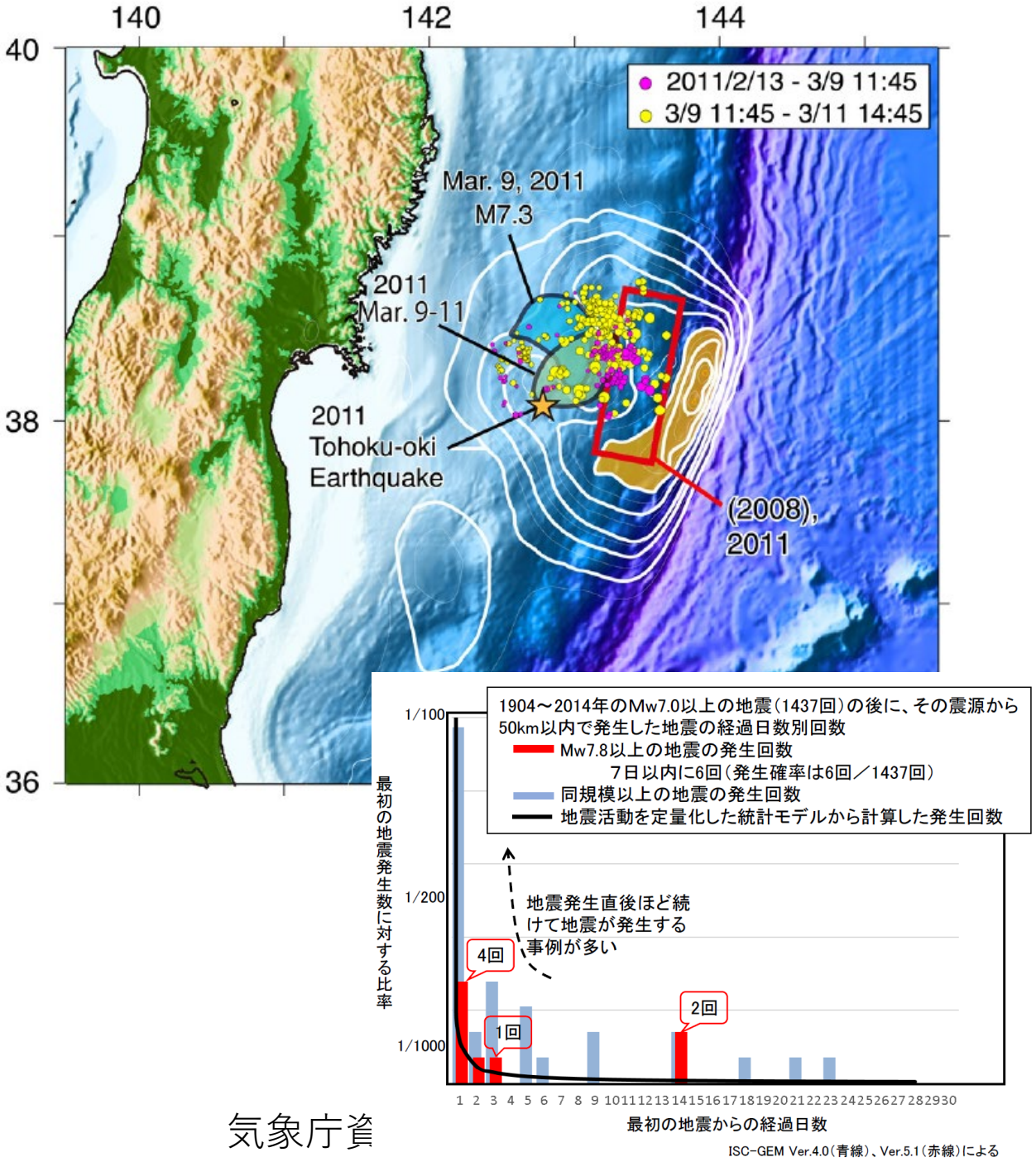
1つのアスペリティが破壊された後，ゆっくりとしたすべりが2つめのアスペリティに伝播していき，時間遅れを伴い2つめのアスペリティで地震が発生する．



Kato (2004)



中央防災会議資料



気象庁資

南海トラフ地震臨時情報

発表条件

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

キーワード

調査中	■観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
巨大地震警戒	■南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	■南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ■想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
調査終了	■巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

内閣府